

① 関係自治体 浜松市、湖西市、磐田市、袋井市、森町、掛川市、菊川市、牧之原市、御前崎市

② タイトル

(ふりがな)

あきはしんこうとかいどう

秋葉信仰と街道

③ ストーリーの概要

秋葉街道は、人々の祈りが息づく歴史文化の十字路であり、塩の道と呼ばれる信州との南北交易の道でもあった。街道を辿る旅は、多彩な歴史の積み重なりが体感できる。

古来、静岡県奥地の山々は、神々が宿る霊場であった。天竜川を遡った標高 866m「秋葉山」もその一つである。「秋葉山」は戦国の世には、武運長久の御利益を求めた武将たちの信仰を集め、平和が訪れた江戸時代には、火防の効力を期待する民衆の信仰を集めた。江戸をはじめとする各地からの参詣者が辿った道は「秋葉街道」と呼ばれ、道沿いや集落の中には、秋葉灯籠が建てられた。現在も火を灯す灯籠は、祈りの姿を今に伝える。南北を結ぶ道は、塩をはじめとした交易を通じ海岸地域と山間地域の人々を結び付けた。遠江北部と奥三河、南信州を繋ぐ道筋に伝わる伝統芸能が持つ共通性は、古来からの人々の交流を物語る。



秋葉街道と坂下宿



秋葉神社の火祭り

④ 代表連絡先

担 当	浜松市市民部文化財課		
電 話	053-457-2466	FAX	050-3730-1931
E-mail	bunkazai@city.hamamatsu.shizuoka.jp		
住 所	〒430-8652 浜松市中央区元城町 103 番地の 2		

ストーリー

○神が住む山々

古来、静岡県奥地の山々には、神々が宿る。現在も、山頂域に社殿や堂宇を構える寺社が、人々の信仰を集めている。天竜川を遡った標高 866m「秋葉山」もその一つである。「火防（火伏）の神」として知られる「秋葉山」であるが、古くは山岳修験の霊場であり、明治時代の神仏分離以前は、秋葉大権現を祀る「秋葉社」と聖観音を本尊とする「秋葉寺」が併存し、護神が修験者三尺坊（三尺坊大権現）であった。「秋葉寺」は明治時代の廃仏毀釈で廃寺（その後明治 13 年に再興）となり、三尺坊大権現は「可睡斎」に遷座された。遷座以降、「可睡斎」でも、火防の大祭（火まつり）が毎年行われている。現在は、火之迦具土大神を祀る「秋葉神社」と「秋葉寺」に分かれ、「秋葉神社」は、山頂の上社と山裾の下社があり、「秋葉寺」にも山裾に里坊である千光寺がある。



秋葉山本宮秋葉神社（浜松市）



可睡斎秋葉総本殿（袋井市）

○武運長久と火防の祈り

秋葉大権現の利益は、古くは武運長久が第一であった。そのため、古来、武家の信仰を集めた。現在、秋葉神社が所蔵する太刀の銘安繩、銘弘次、銘来国光は、鎌倉時代のものであり、戦国時代の武田信玄、豊臣秀吉、加藤清正等が奉納した刀も伝わる。

江戸時代、太平の世をむかえ、町屋等で大火による大規模な損害が生じるようになると、「秋葉山」は火防の効力に注目した民衆の信仰を集めるようになり、各地から参拝者が秋葉山を目指した。東からは、東海道掛川宿から現在の森町を通るルート、西からは東海道御油宿から鳳来寺（ともに愛知県）、熊（浜松市天竜区）を通るルート、南からは東海道浜松宿から小松秋葉神社二の鳥居（浜松市浜名区）、光明山（浜松市天竜区）を通るルート、さらには北からは南信州を通り青崩峠（浜松市天竜区）を越えて水窪（浜松市天竜区）を経て秋葉山に至る道等を辿って、人々が秋葉山を訪れた。これらの道は、「秋葉街道」や「秋葉道」と呼ばれるようになった。宿場や街道沿いには、火防の効力も期待して秋葉灯籠と呼ばれる常夜灯が建立され灯明が点された。特に東海道の袋井宿、見付宿、新居宿などでは、江戸末期から昭和にかけて多数の秋葉灯籠が建立され、現在も旧宿場町内に多く残されている。

○秋葉街道と「塩の道」

街道沿いや集落の中に建てられた秋葉灯籠は、様々なバリエーションを持つ。最も古いものは、浜松市中央区市野町の灯籠で江戸時代の宝暦 10 年（1760 年）の銘を持つ。磐田市見付の灯籠は数少ない青銅製である。牧之原市大江のように竿と呼ばれる柱部が大型化したものや、袋井市長溝・菊川市河東・掛川市細谷のようにセメントモルタルを利用して角柱型や社殿風の形状をした灯籠もある。また、秋葉灯籠には、精緻な彫刻が施された鞘堂（龍燈）と呼ばれる灯籠を覆う建物を伴うことも多い。森町城下の鞘堂は天保 4 年


 見付の燈籠
 （磐田市）

 細谷の燈籠
 （掛川市）

(1834年)と最も古く、湖西市新居町の船町ふなまちにある鞘堂は最大級の大きさを誇り、浜松市浜名区上島新田かみしましんでんや、磐田市高木たかぎの鞘堂は特に彫刻が美しい。秋葉灯籠の中には、今なお、地元で灯りが点されているものがあり、灯籠への幟立てや新年のお札をいただく代参が毎年続けられている地区も多い。浜松市浜名区や湖西市新居町などの一部地域が行ってきた、「秋葉さんの火祭り」という特別な祭りは、生活の中に根付いた秋葉信仰を今に伝えている。火防の効力を求め、秋葉神社や秋葉大権現は各地に勧請された。東京の秋葉原も秋葉大権現に由来する地名である。

秋葉街道は古くからの道を母体とする。江戸時代に人々が「秋葉山」に詣でる以前から、遠江の山間地には各地をつなぐ道があり、その一つが、「塩の道」である。塩の道は、太平洋側と日本海側から現在の長野県へ、「塩」とその対価を運んだ南北交易の往還道であり、太平洋側からのルートは、現在の牧之原市相良から御前崎市、菊川市、掛川市、森町、浜松市天竜区水窪を経て塩尻（長野県）に至る道である。起点となる相良湊を始め、道沿いには塩の道を示す石碑等が建てられ、塩町しおまち（掛川市）や塩買坂しおかいざか（菊川市、御前崎市）など「塩」の取引に由来する地名も残る。

この他、水窪にしどや西渡（浜松市天竜区）のように、行き交う人々、さらには山間の寺院を巡る修験者の宿場となった集落もあり、江戸時代には、秋葉山への参詣者の増加で、さらに栄えた地域もある。森町本町しるした みくらや城下、三倉、浜松市天竜区春野町の和田ノ谷わだのや わかみ、若身等のまちなみは、秋葉山参詣者の宿場町の面影が残る。特に、下社から上社に向う途上にある坂下宿は、往事の面影が強い。

○行き交う物と人、神仏と人の交流

塩の道は、「塩」だけではなく、様々な文物や人々が行き交った。戦国武将は、行軍にもこの道を利用した。特に知られるのは、元龜3年（1572）、上洛を目指した武田信玄である。このとき、武田軍の一部は青崩峠を越え、徳川家康が治める遠江に攻め入り、三方原で徳川家康を打ち破る。世に言う「三方ヶ原の戦い」である。その後、長篠の合戦を機に武田方の勢力が衰えると、家康は塩の道を進んで兵をすすめ、武田方の天野氏の居城である犬居城いぬいじょうを始めとする北遠地域を攻略した。なお、森町三倉みくらや山住神社には、家康の敗走伝承が残る。山住神社は、山犬（オオカミ）信仰でも知られ、狛犬は山犬の姿である。山犬は、動物にまつわる禍を遠ざけると言われ、焼畑農耕が行われた山間地での信仰が厚い。信州駒ヶ根のヤマイヌである早太郎（しっぺい太郎）は、遠江の見付（磐田市）まで



城下の鞘堂と秋葉街道（森町）



船町の鞘堂（湖西市）



塩の道起点（牧之原市）



塩買坂（菊川市）



坂下宿の九里橋（浜松市）

出向き悪霊を退治するが、帰路に命を落とすという伝説が残る。秋葉街道を通じた南北交流を背景とした物語である。山住神社の麓、水窪町や佐久間町では、昭和30年頃まで焼畑農耕が行われていた。現在も、伝統的な作物栽培は続けられ、「水窪じゃがた」と呼ばれるジャガイモや粟や稗等の雑穀を利用した「つぶ食」等は、山間地域の食文化の一端を今に伝えるものである。

秋葉街道は参詣者だけではなく、山間地域の人々を結びつけるネットワークでもあり、国境を越えた奥三河・遠州・南信州の文化の交流をもたらした。秋葉街道が縦横に貫く北遠地域と隣接する奥三河や南信州には、正月行事の田楽を始め、猿楽、田遊びといった中世芸能を演目に持つ祭礼、霜月行事の湯立て神楽（花祭）、盆行事の念仏踊りといった各地に伝わる民俗芸能に共通性が見られる。この地域では人々と神とが結びついた生活が営まれ、また神仏習合の思想も色濃く感じられる。「西浦の田楽」や「川合花の舞」はその代表例であるが、これらはそれぞれ南信州・遠山の霜月祭りや奥三河の花祭りとの関連性が強い。

○秋葉山への誘い

各地から参拝者が秋葉山を目指すようになった江戸時代には、秋葉山参詣の旅を著した「道中記」が多く出版され、絵図も描かれた。十返舎一九による『秋葉山・鳳来寺一九紀行』や、十返舎一九の東海道中膝栗毛を模倣した『秋葉街道似多栗毛』、参詣の道筋を示した『秋葉山参詣道法図』、歌川広重の「東海道五十三次」等の浮世絵にも秋葉山が描かれ、更に多くの人々を秋葉山参詣に誘った。『東海道名所図会』では「蟻の如く道に集い」と表現されるほど多くの参詣者が秋葉山に登っていた様子が記され、街道の宿場町の賑わいが想像される。明治以降には紀行文や日記にも記され、種田山頭火が参詣の途中で読んだ句は、句碑となり、その足跡をたどることができる。これらの紀行文や記録は現代においても古道を辿る人々のガイドとなっている。

火防の御利益を求めての参詣の目的地は秋葉山であるが、旅の行き帰りには他の御利益も求め「ついで参り（両参り）」と称して街道沿いの各所にある聖地を巡礼した。江戸時代に人気のあった県内の参詣先は、水防の御利益を得られた「光明寺」であるが、「奥山半僧坊（方広寺）」や「見付天神」「法多山尊永寺」「油山寺」などの社寺、秋葉山三尺坊と並び「遠州の七天狗」などと称される天狗信仰にまつわる修験の聖地も巡礼の対象とされた。明治以降には、これら社寺に加えて各地の名所・旧跡も組みこまれるようになった。

○辿る道

秋葉山には今なお火防の効力を求め、人々が訪れる。秋葉街道や塩の道は、近代化により姿を変えた箇所もあるが、古くからの姿を留める箇所も多く残る。

古の面影を残す宿場町を発ち、街道沿いの秋葉灯籠に燈火の灯るまちなみを過ぎ、昔からかわらぬスギ林の中の尾根筋の道を通り、巨木に囲まれた山門をくぐった先にある秋葉神社上社を目指す旅路は、信州を目指した塩の運搬者、山を巡った修験者、覇を競った武将、村を行交う人々、火防を祈る参詣者の息吹を感じることができるだろう。



青崩峠付近の街道の石畳（浜松市）

ストーリーの構成文化財一覧表

番号	文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財の所在地
1	秋葉神社	未指定 (史跡)	秋葉信仰の中心地。現在は、火之迦具土を祀る。山頂の上社①Aと、山裾の下社①Bがある。	浜松市天竜区
2	秋葉神社神門(随身門)	市指定 (建造物)	参道の終点にあるスギの巨木に囲まれた楼門。信州立川流による文化9年(1812年)の建立。	浜松市天竜区
3	銘安縄、銘弘次、銘来国光 <small>めいやすなわ めいひろつぐ めいらいくにみつ</small>	国指定 (美術工芸品)	武運長久を求め、秋葉神社に奉納された鎌倉時代の名刀。このほか、武田信玄、豊臣秀吉、加藤清正等が奉納した刀も伝わる。刀は上社社殿に展示されている。	浜松市天竜区
4	秋葉寺	未指定 (史跡)	江戸時代まで、秋葉神社とともに信仰の中心であり、明治13年に再興された(④)。	浜松市天竜区
5	可睡斎	県指定 (建造物) 国登録 (建造物)	明治時代に、秋葉山に祀られていた三尺坊大権現が遷座され、火防の大祭が毎年行われている。寺内の護国塔は県指定、瑞龍閣・東司は国登録の文化財。	袋井市
6	秋葉神社火防祭	未指定 (無形民俗)	毎年12月15日、16日に秋葉神社境内地で行われる、火難防除だけでなく、水難や諸厄諸病も祓いやる祈りをこめた祭り。	浜松市天竜区
7	秋葉寺火祭り	未指定 (無形民俗)	毎年、12月15日、16日に秋葉寺境内地で行われる火防鎮護を祈る祭り。	浜松市天竜区
8	秋葉街道 (掛川宿-森-秋葉山ルート)	未指定 (史跡)	旧東海道掛川宿から、秋葉山に至るルート。森町本町や城下、三倉は往事の面影を残す(⑧A)。	掛川市・森町・ 浜松市天竜区
9	秋葉街道 (御油宿-熊-秋葉山ルート)	未指定 (史跡)	旧東海道浜松宿から、秋葉山に至るルート。熊の町並みは、往事の面影を残す(⑨A)	浜松市天竜区
10	秋葉街道 (浜松宿-秋葉山ルート)	未指定 (史跡)	旧東海道浜松宿から、秋葉山に至るルート。起点を示す一の鳥居跡は現在の浜松市中央区田町(⑩A)	浜松市中央 区・浜名区・ 天竜区
11	小松秋葉神社二の鳥居	市指定 (建造物)	旧東海道浜松宿からの秋葉街道沿いにある江戸時代の三河国岡崎の石工による石造鳥居	浜松市浜名区
12	秋葉街道 (南信-水窪-秋葉山ルート)	未指定 (史跡)	信州から秋葉山に至る山岳ルート。	浜松市天竜区

番号	文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財の所在地
13	青崩峠	県指定 (史跡)	遠江と信州を結ぶ秋葉街道・塩の道の国境の峠(⑬A)。近くには、しっぺい太郎の墓(⑬B)や、脚の病治癒の霊験があると言われる足神神社がある(⑬C)。	浜松市天竜区
14	旧東海道袋井宿	未指定 (史跡)	旧東海道の宿場町。旧町内には、秋葉灯籠が残る。最中(秋葉纏)は、秋葉山に由来する銘菓。	袋井市
15	旧東海道見付宿	未指定 (史跡)	旧東海道の宿場町。旧町内には、秋葉灯籠が残る。	磐田市
16	旧東海道新居宿	未指定 (史跡) 国指定 (特別史跡)	旧東海道の宿場町。旧町内には、秋葉灯籠が残る。新居関跡は国指定の特別史跡	湖西市
17	秋葉灯籠 (市野町の灯籠)	未指定 (建造物)	最古の秋葉灯籠。宝暦10年(1760年)の銘を持つ。	浜松市中央区
18	秋葉灯籠 (見付の灯籠)	未指定 (建造物)	数少ない、青銅製の灯籠。	磐田市
19	秋葉灯籠 (大江の灯籠)	未指定 (建造物)	大型化した竿(灯籠の柱状部分)が特徴的な灯籠。	牧之原市
20	秋葉灯籠 (長溝の灯籠)	未指定 (建造物)	セメントモルタルを利用した角柱型の灯籠。	袋井市
21	秋葉灯籠 (河東の灯籠)	未指定 (建造物)	セメントモルタルを利用した社型の灯籠。	菊川市
22	秋葉灯籠 (細谷の灯籠)	未指定 (建造物)	セメントモルタルを利用した社型の灯籠。	掛川市
23	城下の鞆堂	町指定 (建造物)	天保4年(1834年)に建てられた鞆堂。灯籠は、徳川家康の御用鋳物師である森町の山田七郎左衛門家とともに活躍した岡野家が鋳造した青銅製。	森町
24	船町の鞆堂	未指定 (建造物)	県西部で最大級の大きさを誇る鞆堂。	湖西市
25	上島新田の鞆堂	市指定 (建造物)	精緻な彫刻が美しい鞆堂。	浜松市浜名区
26	高木の鞆堂	未指定 (建造物)	精緻な彫刻が美しい鞆堂。	磐田市
27	遠江地域の秋葉灯籠・鞆堂	未指定 (建造物)	遠江地域には、⑰～⑳以外にも、多様な灯籠・鞆堂が1000基程所在する。	関連全市
28	秋葉さんの火祭り	未指定 (無形民俗)	秋葉信仰を伝える祭り。	浜松市浜名区・湖西市

番号	文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財の所在地
29	塩の道起点	未指定 (史跡)	塩の道の起点である旧相良湊に残る塩の道起点の碑と秋葉灯籠	牧之原市
30	塩町	未指定 (史跡)	塩の道に由来する町名	掛川市
31	塩買坂	未指定 (史跡)	塩の道に由来する地名。菊川市内では、「塩の道羊羹」も販売される。御前崎市内には、戦国時代に武田軍が高天神城を攻める際に陣を張った塩買坂陣場跡がある。	菊川市 御前崎市
32	水窪の集落	未指定 (文化的景観)	かつての秋葉山参詣者の宿場町。川沿いの低地から、山腹にかけて集落が広がる。	浜松市天竜区
33	西渡のまちなみ	未指定 (文化的景観)	かつての秋葉山参詣者の宿場町であり、天竜川を遡り運ばれた荷物は、ここで船から降ろされ、陸路で水窪へと運ばれた。	浜松市天竜区
34	三倉のまちなみ	未指定 (文化的景観) 県指定 (建造物)	かつての秋葉山参詣者の宿場町。集落はその面影を残す。三倉八幡宮は県指定の建造物。三倉には家康の敗走伝承を元にした戦国夢街道(ハイキングコース)がある。	森町
35	和田ノ谷のまちなみ	未指定 (文化的景観)	かつての秋葉山参詣者の宿場町。集落はその面影を残す。	浜松市天竜区
36	若身のまちなみ	未指定 (文化的景観)	かつての秋葉山参詣者の宿場町。集落はその面影を残す。	浜松市天竜区
37	坂下宿のまちなみと参道	未指定 (文化的景観)	秋葉山上社の裾野に位置する秋葉山参詣者の宿場町。九里橋を渡り集落を過ぎると、秋葉山頂までは森林の中の登山道となり、路傍には丁石が建ち、接待茶屋の跡なども残る。	浜松市天竜区
38	犬居城跡	県指定 (史跡)	戦国時代、北遠に勢力をはった天野氏の居城の跡。	浜松市天竜区
39	山住神社	市指定 (建造物) 県指定 (天然記念物)	敗走した家康が訪れたという伝承を持ち、遠江の山犬信仰の中心的神社。境内の2本のスギは県指定の天然記念物。	浜松市天竜区
40	水窪じゃがた	未指定 (無形民俗)	水窪に伝わるジャガイモの在来種。	浜松市天竜区
41	つぶ食	未指定 (無形民俗)	かつて主食であったアワ、ヒエ、キビなどの雑穀料理、伝統食として今でも北遠地区に残る。	浜松市天竜区
42	西浦の田楽	国指定 (無形民俗)	毎年旧暦1月18日から19日にかけて、夜を徹して行われる田楽。	浜松市天竜区

番号	文化財の名称	指定等の状況	ストーリーの中の位置づけ	文化財の所在地
43	川合花の舞	県指定 (無形民俗)	毎年10月下旬に行われる湯立神楽。奥三河の霜月神楽の花祭が、静岡県側に伝わったもの。	浜松市天竜区
44	光明寺	未指定 (史跡)	水防の御利益を求め、秋葉山への参詣者が「ついで参り(両参り)」に訪れた。	浜松市天竜区
45	奥山半僧坊(方広寺)	国登録 (建造物)	秋葉山への参詣者が「ついで参り(両参り)」に訪れた。	浜松市浜名区
46	矢奈比賣神社(見付天神)	未指定 (史跡)	秋葉山への参詣者が「ついで参り(両参り)」に訪れた。	磐田市
47	尊永寺(法多山)	国指定等 (建造物)	秋葉山への参詣者が「ついで参り(両参り)」に訪れた	袋井市
48	油山寺	国・県指定 (建造物)	秋葉山への参詣者が「ついで参り(両参り)」に訪れた	袋井市

構成文化財の写真

① 秋葉神社



①A 秋葉山本宮秋葉神社（上社）



①A 秋葉神社（上社）神門 ※修理中



①B 秋葉神社（下社）

② 秋葉神社随神門



③ 銘安縄、銘弘次、銘来国光



③A 銘安縄



③B 銘弘次

④ 秋葉寺



秋葉寺山門

⑤ 可睡齋



可睡齋秋葉総本殿

⑥ 秋葉神社火坊祭



火の舞



奉納手筒花火

⑦ 秋葉寺火祭り



大護摩焚き



焚火と凧

⑧ 秋葉街道 (掛川宿-森-秋葉山ルート)



⑧A 城下のまちなみ

⑨ 秋葉街道 (御油宿-熊-秋葉山ルート)



⑨A 熊のまちなみ

⑩ 秋葉街道 (浜松宿-秋葉山ルート)



⑩A 一の鳥居跡

⑪ 小松秋葉神社二の鳥居



⑫ 秋葉街道（南信-水窪-秋葉山ルート）



青崩峠付近の街道の石畳

⑬ 青崩峠



⑬A 青崩峠



⑬B しっぺい太郎の墓

⑭ 旧東海道袋井宿



⑮ 旧東海道見付宿



⑯ 旧東海道新居宿



⑰～⑳ 秋葉燈籠



㉓ 城下の鞆堂



⑰ 市野町の燈籠（鞆堂） ⑱ 見付の燈籠



⑲ 大江の燈籠 ⑳ 長溝の燈籠

㉔ 船町の鞆堂



㉕ 上島新田の鞆堂



㉑ 河東の燈籠 ㉒ 細谷の燈籠

⑳ 高木の鞘堂



㉑ 塩町



㉒ 塩買坂



㉓ 秋葉さんのお祭り



㉔ 水窪の集落



㉕ 塩の道起点



㉖ 西渡のまちなみ



③④ 三倉のまちなみ



③⑧ 犬居城跡



③⑤ 和田ノ谷のまちなみ



③⑨ 山住神社



狛犬



境内の大スギ

③⑥ 若身のまちなみ



④⑩ 水窪ジャガタ



③⑦ 坂下宿のまちなみと参道



④① つぶ食



④⑤ 奥山半僧坊 (方広寺)



④② 西浦の田楽



④⑥ 矢奈比賣神社 (見付天神)



④③ 川合花の舞



④⑦ 尊永寺 (法多山)



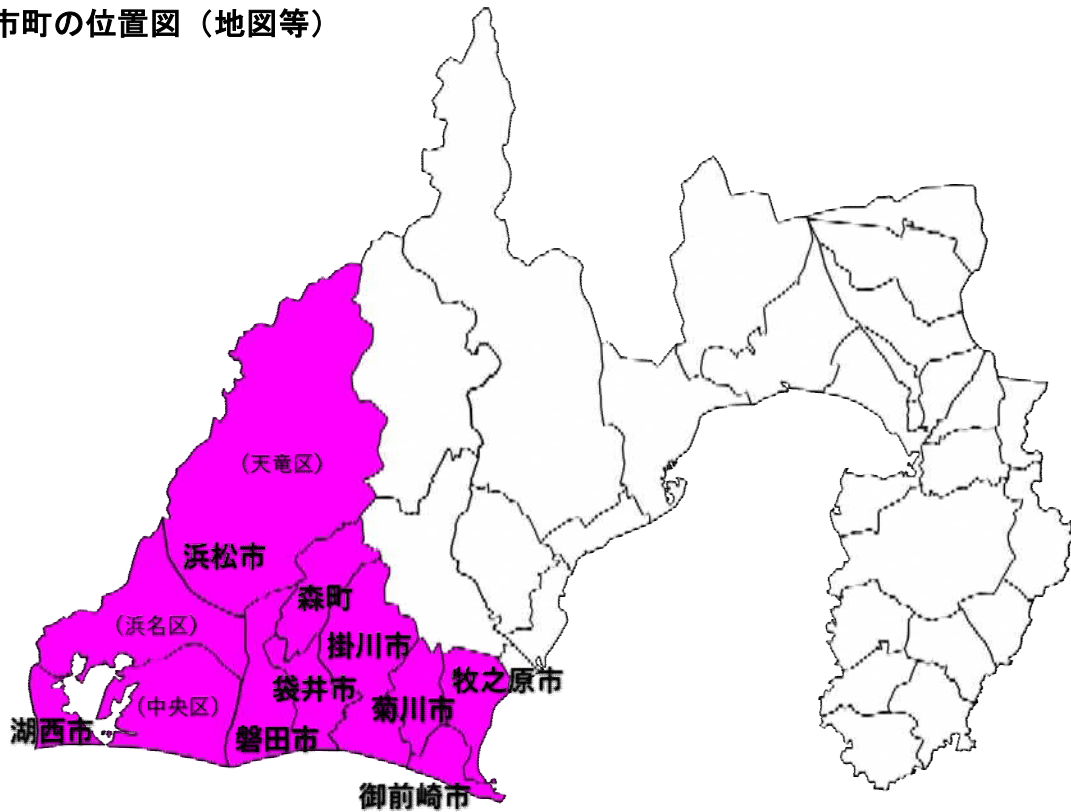
④④ 光明寺



④⑧ 油山寺



市町の位置図（地図等）



構成文化財の位置図

(1) 秋葉神社・秋葉寺・可睡斎秋葉総本殿



(2) 構成文化財①～④⑧

(⑧⑨⑩⑫秋葉街道ルート、⑳遠江地域の秋葉燈籠・鞘堂を除く)



(4) 構成文化財⑦

遠江地域の秋葉灯籠・鞆堂



※各市町の広範囲に分布 (遠江地域に1,000基程度所在)

